

第3回浜田圏域県管理河川に関する減災対策協議会 議事概要

1. 日 時 : 平成30年5月31日(木) 10:30~12:00

2. 場 所 : 江津市役所 別館 江津市職員会館会議室

3. 出 席 者

(協議会委員)

浜田市 : 浜田市長(代理 副市長)

江津町 : 江津市長

国土交通省 : 浜田河川国道事務所長

気象庁 : 松江地方気象台長

島根県 : 浜田県土整備事務所長

(オブザーバー)

国土交通省 : 中国地方整備局河川部

島根県 : 防災部防災危機管理課

島根県 : 土木部河川課

4. 挨 拶 : 協議会委員

5. 議 事

- ・「浜田圏域県管理河川に関する減災に向けた地域の取組方針のフォローアップ」
について

6. その他(情報提供)

- ・「八戸川治水計画について」
- ・「改善された防災気象情報と大雨事例」

7. 議事結果

平成29年度の実施状況報告、平成30年度の実施予定、今後のスケジュールについて協議会に諮った。その結果、協議会構成員の賛同を頂くとともに、減災に向けて各機関が協力して取り組みを推進していくことを確認した。

8. 意見交換概要

【江津市長】

洪水浸水想定区域図は1000年に一度の確率で計算を行うのか。

【県河川課】

確率年は一般に表記をしないが、計算の過程では1000年に一度の確率を超えるような雨

を対象としている。基準は国の考え方と同一。

【中国地方整備局河川部】

近隣で降った雨を対象に確率計算を行っており、その雨が対象のエリアで降ったと仮定して確率処理すると 1000 年という大きな値となるが、決して起こりえない雨では無い。降る可能性のある雨と考えていただきたい。

【浜田河川国道事務所長】

危機管理型水位計については、モニタリングした上で段階的に整備する考えか。

【県河川課】

島根県としては、数ありきではなく、住民の避難等に役立つ情報であるかを見極めながら（効果を検証しながら）、また市町村のニーズ（河川カメラの要望）も踏まえながら増設について考えていきたい。

【浜田市副市長】

危機管理型の仕組みについて確認したい。

【県河川課】

洪水時に特化した水位計が特徴となっており、一定の基準水位に到達して初めて水位観測（データ配信）を行う。通常の水位計と機能の違いもあるので、使い分けについても考える必要もある。その点からも効果検証しながら増設を考えたい。

また、計測方法としては、超音波による非接触式や水圧で計測する接触式がある。

【中国地方整備局河川部】

危機管理型水位計は国が先行して整備を行い公表するのでそのような情報も参考していただきたい。

【浜田県土整備事務所長】

既に公表された洪水浸水想定区域図では、相当なエリアが浸水想定区域内となるが、どのように防災対策を進めるか参考となる情報があれば教えていただきたい。

【県河川課】

防災計画の見直しや要配慮者利用施設の対象施設の見直しも今後行われると聞いている。

【中国地方整備局河川部】

全国的に同時に進められており、広域避難に関してモデル事例を探しているところ。良い情報があれば共有させていただく。

【浜田市副市長】

気象情報がより細かく提供されるようになったが、その情報を受けてどのタイミングで避難勧告等を出すかは経験を積まないとなかなか難しいと感じる。

【松江地方気象台長】

気象台と市町村で双方向ホットラインを開設している。分かりにくい点があればお気軽にご連絡いただきたい。